

精進が池

精進池は、箱根を北から南に縦断する道路のそばに佇む池です。中世には、この道は箱根地域の玄関口である湯元と箱根神社をつなぐ主要道路の一部でした。この道を進む参拝者は、危険な道程を歩まねばなりませんでした。泥道は狭く、急なこともしばしばで、大雨の後にはぬかるみへと変わりました。近隣の火山活動で空が不吉な色に染まり、奇妙な音と匂いが立ち上ることもあり、ますます不安にかられた旅行者の中には、この道程を「地獄下り」という劇的な表現で表した者もありました。この危険な道程から、信仰者の一部は、神仏の加護があることを祈り、精進池周辺の岩を使って仏像を彫りました。700年以上前に作られたものを含め、こうした仏像の多くは今でも残されています。

この池のそばの小さな博物館では、石仏の歴史と、旅人が目的地に辿り着くために乗り越えざるを得なかった危険の数々をうかがい知ることができます。